

三田4・5丁目・高輪
白金・白金台

発行：高輪地区総合支所 協働推進課
編集：みなとつぷ編集室



<http://www.city.minato.tokyo.jp/takanawachikusei/takanawa/koho/saishin.html>

CONTENTS

2 街が変わる ゆかしの杜

3 この街にこの人あり



巖谷 國士 さん
(明治学院大学名誉教授、
仏文学者、評論家、
写真家、講演家)

4 5 地域で賑わうイベント

泉岳寺義士祭
MINATOシティハーフマラソン2018

6 地域のあしあと
高輪こぼれ話

7 みなとつぷ子ども編集室

8 区からのお知らせ

表紙絵
[タイトル] 花便り
[作者] 三嶋 禮雄 さん (高輪在住)

地域のことを知るといふこと

高輪地区を散歩すると、いろんな発見がある。坂を登れば、そこには名前がちゃんと付いていて由来が書かれた坂名標識が立っている。都会だとは思えないほど広くて遊具も多い公園がいくつもあり、時間帯によって様々な顔を見せる。私が、散歩するのは、大学の2限の授業前。少し早めに家を出て、のんびり歩いて通学している。この時間帯の公園は、誰もおらず静かなことが多い。

私がこうして高輪地区を散歩するようになったのは、この「みなとつぷ」の編集メンバーになって、しばらくしてからだ。きっかけは、「みなとつぷ」の編集会議で場所の名前が出た時に、誰もが分かるような場所であっても、私には、さっぱり見当がつかなかったことだった。会議には、通りの名前や神社の名前など、意識していないとなかなか覚えられない名前が多く出てくるため、散歩をして覚えたことがよく役立った。取材に参加するようになり、「みなとつぷ」に深く関わっていくことが出来るようになったのには、この「地域のことを知っている」ということが重要だったと思う。

「みなとつぷ」の編集メンバーには、地域のことをよく知っている方が多い。場所についてもそうだが、よく驚くのは人脈の広さだ。メンバーの個人的な繋がりが紹介して頂いて実現した、記事や表紙絵は少なくない。趣味などで出来た繋がりがそのように広がっていくのは、地域にとつとでも良いことではないだろうか。私も先日、「みなとつぷ」での経験を「白金新聞」というウェブマガジンで記事にして頂いたとき、私も地域の輪に入ることが出来たという実感があつた。高輪地区に住んでおらず、大学をこの春卒業すると高輪地区との関係が全くなくなってしまう私だが、今後も高輪地区は私にとって特別な存在であり続けると思う。

地域のことを知るために大切なことは、自分の足を動かすことだ。「みなとつぷ」は、地域を知るための第一歩の、手助けに過ぎない。こんなにも素敵なものがたくさんある地域なのだから、「みなとつぷ」を読んで知らないものを発見した時は、ぜひ自分の足で行って、より深くこの高輪地区のことを知って欲しい。

(担当/戸部田)



街が変わる

郷土歴史館等複合施設
「ゆかしの杜」



ゴシック調の外観

■街が変わる

郷土歴史館等複合施設「ゆかしの杜」が平成30(2018)年4月にオープンしました。

「ゆかしの杜」には、郷土歴史館の他「がん在宅緩和ケア支援センター」、「区民協働スペース」、「白金台学童クラブ」、「みなと保育サポート白金台」、「子育てひろばあっぴい白金台」などの施設があります。「ゆかしの杜」は歴史的建造物「旧公衆衛生院」を保存・改修して利用しています。

旧公衆衛生院

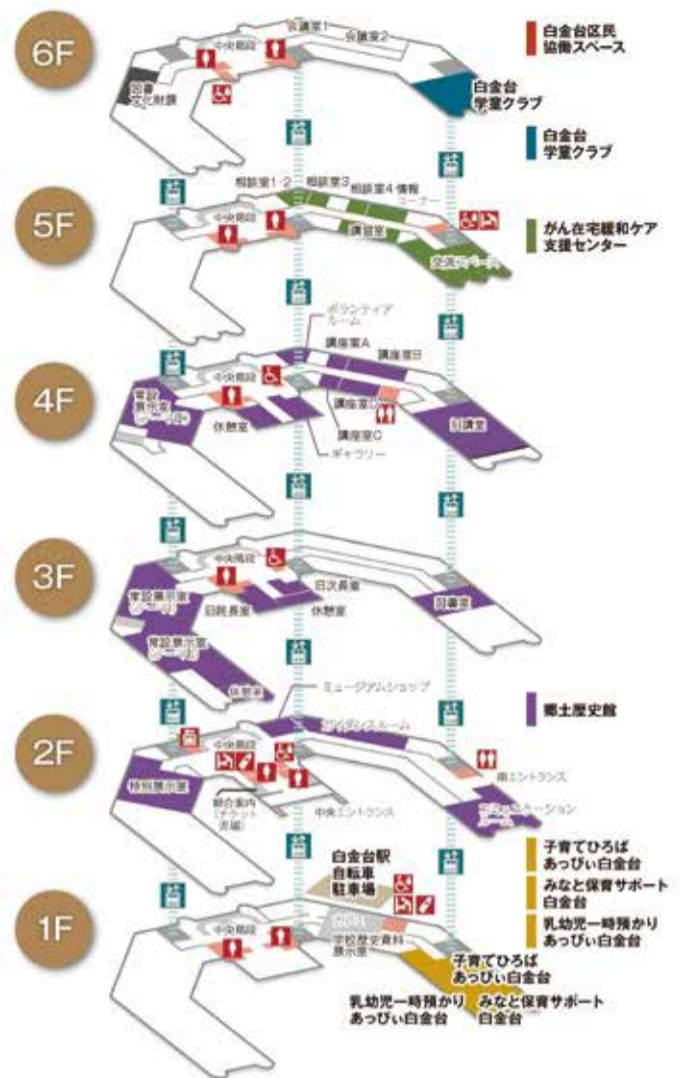
この建物は昭和13(1938)年に、米国ロックフェラー財団の支援・寄付のもと、国民の保健衛生に関する調査研究及び普及活動を目的に国が設立した機関「公衆衛生院」のために建設されたものです。

設計者は内田祥三^{よしかず}東京大学建築学科教授(当時は東京帝国大学)で東京大学安田講堂などを設計しています。外観は内田教授設計の特徴であるゴシック調になっております。中央ホールと旧院長室のある2、3階と、授業を行う教室や実験室がある4、5階、学生の宿泊する寮があった6階と大きく3種類の用途とデザインに分けられている点が特徴です。

■建物の保存・改修

平成21(2009)年、港区が旧公衆衛生院を取得し、約80億円をかけ郷土歴史館を中心とした複合施設として改修を実施しました。貴重な建物の意匠等の保存については、港区文化財保護審議会や建築史の専門家の意見を参考にしています。耐震補強、バリアフリー化に配慮した改修を行っています。

340席の階段状の旧講堂、旧院長室は、建設当時の部材がそのまま残されており、当時のすばらしいデザインの様子がかうかがえますが、見学のみで、現在の法律上、集会は行えません。



旧講堂

郷土歴史館(1階、2階、3階、4階)

郷土歴史館は港区の自然・歴史・文化を深く知り、交流する拠点です。

常設展示のほか、企画・特別展示、イベントの開催、カフェ・ミュージアムショップなどを通して港区の魅力を紹介します。

常設展示室(3階、4階)は、3つのテーマに分かれています。

特別展示室(2階)では、年3回程度企画展や特別展を行い、2019年2月～5月は企画展「平成と港区」が開催されます。

その他、無料で入場できる原始・古代から現代に至る港区5地区を紹介するガイドンスルーム、縄文土器やクジラの骨格標本など本物の資料を見たり触ったりできるコミュニケーションルームの他、図書室、ミュージアムショップ、カフェなどがあります。



テーマ1
海とひとのダイナミズム(3階)



港区の歴史・文化の資料を閲覧できる
図書室

がん在宅緩和ケア支援センター「ういケアみなと」(5階)

東京23区で初めてつくられたがん在宅緩和ケア支援センター、「ういケアみなと」は次のような主旨でつくられました。

- がん患者とその家族が住み慣れた地域で可能な限り質の高い生活を送れるよう支援します。
- がん患者とその家族だけではなく、広く開かれた施設とします。
- 地域におけるがん診療連携拠点病院や医療機関等との連携やニーズに応じて区の保健福祉サービスへ迅速につなげることができる等、自治体の強みを生かした新たな在宅緩和ケアを推進します。

施設の中で、看護師や医療ソーシャルワーカーが、がん患者やその家族の様々な相談をお受けしています。また、リハビリセミナー、栄養セミナー、生活の質向上セミナーなどを開催しています。施設は、ソファなどが置かれ居心地のよい空間になっています。どうぞ、気軽に相談においでくださいとのことです。



相談室



セミナーの様子

「区民協働スペース」(6階)

2つの会議室で構成された区民協働スペースがあります。

毎月第3金曜日午後1時30分～4時まで、高輪地区CCクラブが主催するコミュニティ・カフェが開催され、地域の方の交流を深めるために、飲み物のサービスをしています。



コミュニティ・カフェの様子

(担当/安藤、松島、吉田)

この街にこの人あり

明治学院大学名誉教授、仏文学者、評論家、写真家、講演家 巖谷 國士いわやくにさん

人生とは、やはり、出会い、です。

●少年時代の高輪について
その頃のお住まい、高輪の様子や思い出を教えてください

高輪には高松中学校を卒業した15歳までいました。住所は港区芝高輪南町53番地。その後一時は藤沢にいたんですが、大学に入ってから今度は世田谷に来ました。相続とかで家を売らなければいけなくなつて高輪を離れたんですけど、ほんとに高輪は今でも夢に出てくるくらい馴染んでいた土地です。

弟がずっと病気で母は介護が大変で、僕はほったらかしにされていたせいか、子どもの頃から孤独癖があつて、とにかく一人であちこち歩きまわっていました。高輪は空襲に遭わなかったもので、昔のまま残っている歴史の古い建物、森のような自然があつたし、僕の家は崖の上の一番高いところで、その下に谷、その向こうに島津山が見えました。高輪は坂ばかりです。急斜面の坂道や、坂じゃ歩けないから階段になっているところもたくさんある。その階段や坂が好きでしたね。たとえば京都みたいな平坦な街なかで育つたら風景がいつでも



【プロフィール】 巖谷 國士 (いわやくに) お

1943年に港区高輪に生まれ、15歳まですごした。東京大学文学部卒・同大学院修了。シュルレアリスムの研究と実践をはじめ、仏文学者・評論家として活動する一方、1970年から白金台の明治学院大学フランス文学科の専任になる。以来、故郷に近いこの大学で教授をつとめ、現在は名誉教授。文学や美術や映画の批評のほか、写真・紀行・メルヘン創作・講演・展覧会監修など、幅広い分野の仕事をしている。著書に『シュルレアリスムとは何か』『遊ぶ』シュルレアリスム』『森と芸術』『旅と芸術』『澁澤龍彦論コレクション』全5巻、ほか多数。プルトン『シュルレアリスム』『ナジャ』やドーマル『類推の山』などの翻訳でも知られる。

同じように見えるでしょうが、そうではなく坂の多い街だと風景がどんどん移りかわります。意外なものがふつと現れたり、坂を降りると広い道に出て、そこへ都電がゴーツと走ってきたりするような、そういう風景はある種の映画みたいで、その感じをクッキリ覚えています。

僕はちよつとませていたのか、小学校の上級くらいから一人で映画を観に行っていました。1950年代はあのへんにも映画館がいくつもあつたんです。すつかり映画少年になつて、たとえば「五反田セントラル」なんかは僕がいつも行くもんだから、タダで入れてくれたりする。「高輪映画」とか「芝園館」とか、住宅地に映画館が馴染んでいる時代でした。お寺の隣に映画館があつたりして、しかも道が入り組んでいて、坂ばかりでしょ。そういう変化に富んだ街を歩いていたら、ところが、僕の人格形成の一部になつていくなつて、世界中・日本中を渡り歩くようになったんですよ。

高輪にある品川駅というのは、歴史的

にも東京の入り口です。品川駅では、満州や朝鮮から引き揚げた人たちを乗せた列車、舞鶴発とか敦賀発の「引揚列車」が終着の品川駅に戻ってくる。連合軍の占領時代だからアメリカ兵をはじめ外国人も多くて、独特の国際色がありました。柘榴坂の途中に引揚者の寮があつたり、高輪は空襲を受けなかったからあちこちの家や、それからお寺にも、家を失った人々や引揚者たちが住んでいました。1950年代まではその印象が強いですね。

●巖谷家について、巖谷小波さんはお祖父さまです。小波さんの住んでいたところで生まれたのですか？家の様子はどうですか？

巖谷小波は明治3年生まれで、もとは平河町です。小波の父、巖谷一六は貴族院議員で、書家でもあり医者でもあるような人でした。巖谷小波(本名・季雄)は早熟で、10代で作家として有名になつて、20代でベルリン大学の教授をつとめ、帰ってきてから色んな家に住んだらしいけど、終の住処として30代で高輪の南町に家を持った。当時としては開かれたばかりの住宅地だったようです。その古い家で僕も生まれ育つたんです。1945年の東京大空襲とともに1年ぐらい疎開することになって、敗戦後に高輪に戻ると、家は空襲のあいだ放置されていたせいで、あちこち壊れて廃屋みたいになつていました。その後もあまり手入れできなかつたので、今でも夢に出てくるのは幽霊屋敷みたいなイメージです。

小波には子どもが7人いて、それぞれに女中さんがついていたくらいなので、かなり広い家ではありました。明治末期の大工の建てた日本家屋と、そのまま連続してイギリス人の建てた西洋館があつた。西洋館は20畳くらいの2階建てで、僕は中学生の

頃そこにいました。西洋館の天井は高く、床はコルク張り、シャンデリアがひとつ下がついて、窓はイギリス式の上げ下げするダブルハンクに菱形の格子が入つていて、出窓もある。それが何もかも幽霊屋敷みたいでポロポロになつていて、引揚者なども別の部屋に住んでいました。複数の家族の世界の中にいたんですね。僕の子どもの頃の孤独癖は、大人に囲まれていたから逆に一人で歩くのが好きになつたということかもしれません。

●ご専門の研究について
シュルレアリスムをご専門にしたきっかけはなんですか？

20歳の時に出会った瀧口修造と澁澤龍彦の存在が大きかった。それまで僕は周囲に同調することがなくて、自分はちよつと人と違うなと感じて生きていたんですが、そんな感覚をその2人は会った途端に受け入れてくれたようです。それで子どもの頃から共感のあつたシュルレアリスムというものを本格的にやつていこう、と決断できました。

人生とは何かといたら、やはり、出会い、です。いわゆるいい出会いを求めて生きていた時に、ある日ばつたり誰かと出会う。日本では「一目惚れ」とか訳されますけど、フランス語で「coup de foudre」っていう言葉がありますね。「雷の一撃」です。それほどではないにしても、出会った瞬間に運命的に感じる何かがあつて、そんな偶然の「出会い」から人生がひろがっていく。予定されたこと、与えられたこと、や教えられたことではないです。それが自由ということなんで、それがきっかけになる。僕の人生もだいたいそうですね。

●旅についての本を多く書かれています。旅が好きなのですか？

子どもの頃から歩きまわっていて、未知のものとの出会いが好きだったって

うことも、シュルレアリスムのはじまりでした。人間同士の出会いだけでなく、モノや出来事との出会いもあります。未知のものとの出会いが人生をつくる。僕の書いた本に『旅と芸術』というのがありますが、それの副題が「発見・驚異・夢想」となっている。旅というのはまず発見で、思いがけないモノや、人と出会う。世界が画的ではなく多様性に満ちていることの発見です。そこに驚異が生まれ、夢想にもつながってゆく。不思議なものに惹きつけられて、多様性を体験すること。66箇国、日本全県を訪れて、僕がそういう旅をつづけているのは、高輪で生まれ育つたということと関係があるような気がします。

●高輪地区について
これからの街づくりで大切なことは何でしょうか？

大切なのは「記憶」と「記録」でしょう。今の日本で失われつつある大切なもの。人間ひとりひとりが語り伝える、書きのこす、写真に撮って焼きつけるということが、写真に撮って焼きつけるというところが重要です。それが文化の基本ですね。永井荷風の『日下野郎』の中で、高下駄を履いて当時の東京を散歩して、麻布から高輪にもよく来ていました。が、どうやら俳句の先生が小波だったからもあるらしい。その時に今の高野山東京別院の崖や、古いシイの木に目をとめていますね。東京の代表的な木として、シイの木を称えています。そういえば高松中学の上の大石内蔵助切腹場のあたりに、樹齢500年とかのシイの木があったりしますが、ああいうものが土地や風土の記憶です。それを切つてはいけません。「街づくり」なんていう行政の発想ではなく、むしろ「街のこし」というか、記憶、記録をひとりひとりが保ちつづけてゆく。あたりまえのことですが、それがすべての基本でしょう。

MINATO シティハーフマラソン2018

(平成30(2018)年 12/2)

MINATO シティハーフマラソン 2018が12月2日に開催されました。

今年、開催された港区の初めてのマラソン大会です。ハーフマラソンは21.0975kmで8時30分にスタートし、ファンラン(「fun running」の略称。楽しみながら走ることが目的のマラソンのこと)は1.5kmで8時50分にスタートしました。ハーフマラソンは2時間30分以内にコースを走れば完走です。ハーフマラソン参加者は5000人、ファンラン参加者は500人です。ハーフマラソンの応募資格は満18歳以上で制限時間以内に完走できる方で、ファンランは年齢制限なしです。どちらも早い時期に募集人員を超えたようで、大変な人気です。

当日は晴れた日で、絶好のマラソン日よりでした。スタート地点の芝公園に8時ごろには、早くもランナーや観客が大勢つめかかっています。

ランナーたちはゼッケンをつけたウェア、靴、帽子などがファッションブルなスタイルで参加しています。さすが港区マラソンです。

開会式で武井区長、主催者代表などのあいさつがあり、いよいよスタートです。

本格的にタイムを競う方、走るのを楽しむ方など老若男女、様々なランナーが集まっています。

ファンランは、お子様が多く参加されています。家族で参加される方もいて、和気あいの雰囲気です。

ボランティアスタッフも大勢いて、ランナーや観客の誘導をスムーズに行っていました。大会運営がよかったですという意見もありました。

コースは、東京タワー、高層ビル群、由緒ある寺社仏閣、緑豊かな公園、水辺など港区の多彩な魅力を満喫できるよう設定されており、交通規制も広い範囲で行われていましたが、4車線道路では片側2車線、車が通行できるようにしていました。

高輪地区は、国道15号(第一京浜)がコースとなっており、沿道にはランナーを応援する方も多くでいていました。走る人、応援する人、老いも若きも参加する素晴らしいイベントです。港区の新しい魅力が一つ増えたようです。

見事完走した高輪地区在住の3人のランナーにお話をうかがうことができました。皆さん、マラソンは初出場だということびっくりです。



ハーフマラソンのスタートです



第一京浜、泉岳寺あたりを走るランナーたち



ファンランのスタートです



様々なイベントが催されています



泉岳寺義士祭

(平成30(2018)年 12/14)



泉岳寺に向かう義士行列

毎年、12月14日には高輪泉岳寺で、赤穂浪士が吉良邸に討ち入りした日に因んで義士祭が開催されています。高輪泉岳寺には、浅野内匠頭や赤穂浪士47名のお墓があります。

曾祖父の代(明治時代)から泉岳寺の前でお土産店を営んでいる小泉陽一さんから義士祭にまつわる面白いお話をうかがいました。



泉岳寺の墓前のお参りに向かう義士行列



芝増上寺に立ち寄った義士行列

■義士祭の歴史

戦前から義士祭はありましたが、いつごろから始められたのかは誰もわかりません。

自然発生的にできたように思われます。太平洋戦争の頃には、兵隊が大勢お参りに来られたことがありました。当時は12月14日だけでなく、一年中多くの方がお参りに来られていました。

戦後すぐの頃の義士祭では、庫裡の前に、舞台をつくり、踊りや歌など演芸を行ったことがありました。のんびりした時代でした。

1964年のNHKの大河ドラマに「赤穂浪士」が取り上げられ、視聴率が50%を超えたことがありました。まさに国民的ドラマだったんですね。「赤穂浪士」が放映されている年の12月14日、泉岳寺には、朝から大勢の人が訪れ驚いたことがあります。その時の来場者は5万人だったようです。現在は1万人から2万人位です。

1999年にもNHKの大河ドラマ「元禄繚乱」が放映され、義士祭で大石内蔵助役の中村勘九郎のトークショーが行われました。

討ち入り300年祭の時は、泉岳寺護国寺が主催して、ドラマの俳優や力士の方が来られ、大石内蔵助に扮し、高輪学園剣道部の協力で義士行列をしました。その時も大変な騒ぎでした。

義士祭で高輪学園の卒業生による提灯行列も長い間、続けられています。

アメリカの映画「47RONIN」が制作されてからは、外国人の方も多く訪れるようになっています。



戦前の義士祭の様子 訪れている人の服装が面白い(一部写真に破損あり)

■義士行列について

義士行列は、赤穂浪士の討ち入りの装束を着て中央区役所から泉岳寺まで行進します。義士行列がはじまったのは1950年ごろです。60年以上の歴史があります。最初の義士行列の主催者は、東日本橋にあった繊維問屋の日本綿毛でした。社長さんが忠臣蔵のファンだったようで、社員の方々が参加し、東日本橋から泉岳寺まで行進を行いました。その後、日本綿毛は引っ越したため、財界二世学院関係者の主催で行われています。最初の頃は行進する人を探すのが大変でしたが、今は応募する方が多く、昨年は2回も義士行列を行いました。



古沢秀治さん (白金在住、62才)

マラソン中の紺と赤のコントラストが素敵なウェアが目を引きました。「6月にエントリーして、今日までジムのトレッドミルで走りこんできました。完走出来ないと恥ずかしいので参加することは内緒にしていたのですが、たくさんの知り合いに会ってしまいました。足が上がりなくなってきたのですが、完走出来て嬉しいです。」



J:COMの「地域活性化にすべてを捧げるヒーロー戦隊サカリパン」のサカリパン・ブルーに扮した金井さん「今日のコースは、ビルがきれいできれいな走りでした。普段はトライアスロンをやっているのですが、家のある三田から皇居まで走っていますが、それでもゴール前の500mは上り坂がきつかったです。」

金井由光さん (三田在住、50才)



望月義也さん (白金在住、46才)

走った後は思えないほど、冷静にお話をいただきました。どのように初マラソンを攻略するかの理論的なアプローチが興味深かったです。「いつもこのような企画では、主催者側の救護班の医師として、関わっている事が多いのですが、今回は参加者としてイベントを体験してみようと思いました。2週間ズボンに拳が1個入るぐらい体重を落として臨んだ甲斐あって完走出来ました。今夜は我慢していたカレーが食べたいです。」

■取材を終えて

「参加者だけでなく、誰もが楽しむことができるマラソン大会の実現に向けて」と港区が目指したとおり、沿道に多様な催しが繰り広げられていました。ダンス、音楽、港区の有名店のフードトラック、スポンサー企業のブース等、のんびり休日を過ごす人々の姿で溢れていました。

地域のあしあと 高輪こぼれ話

高輪地区に昔からお住まいの方々が思い出すままお話してくださった貴重な話題の数々、この地区に暮らした日常の中でしか見聞きできないお話にご注目ください。

お話を伺った方々 ◆ 鶴飼良彦・るり子様ご夫妻(元大柗屋酒店)、松本俊一様(諸道具みやた)、千光正夫・洋子様ご夫妻(石福石材店)、文屋弘様(松島屋)

昭和天皇と高松宮邸

昭和天皇が皇太子であった大正時代、現在の高輪皇族邸に学問所があり、一時期東宮御所としてお使いだった。昭和天皇は甘いものが好きだったようで、特に東宮御所の隣の松島屋さんの豆大福をよくご用命されていた。

昭和に入り、高松宮宜仁親王殿下、喜久子妃殿下が永田町から移転してこられ、高松宮邸となった。ご夫妻は、ご近所を大事にしてくださり、近隣のお店、

八百屋、魚や、肉やなどよく使ってくださいました。隣の松島屋さんも御贔屓にしてくださり、命日など、ご親戚の集まりにもご注文いただき、豊島岡墓地でも豆大福をお供えし、お参りの方々がそれをお持ち帰りになられたそう。

妃殿下御付きの女性の方からの注文の電話は、いつも「御殿でございます」ではじまり、注文があると家中大忙しで豆大福を作っていた。

当時、邸内では近所の子供たちが自由に入出入りして遊んでいた。



大正7(1918)年当時の松島屋さん



高輪東宮御所
(大正10年、最新東京名所写真帖) ※

二本榎通り

この界隈は、昔はのどかなお寺と職人の多い街だった。

江戸時代から周辺にお寺が多く門前町の様相を呈していた。

明治時代以降、華族や財界要人の邸宅が増え、周辺のお屋敷の御用聞きが行きかう商店街となる。



二本榎の商店街
(昭和40年、みなと写真散歩) ※

大正時代にはメイン道路だった二本榎通りを広げる計画があり、その為、家を建てる時は2階までしか建てられなかった。(その昔には、この通りを大名行列がとおり、上から覗いてはいけないと2階の窓には格子が入っていた)

昔の桜田通りは荷車がやっと通れるくらいの狭い道だった。

二本榎通りは馬の背といわれる高い所にある通りで、お客様が上ってきてくださって商売が成り立っていた。

戦中戦後

■戦時中

太平洋戦争の最中、今でも明治学院大学の並びにある「海軍墓地」のところに横穴を掘り、防空壕として使っていた。

昭和19(1944)年5月の空襲時、丹波町に住んでいたが、五反田から猿町までの一体が燃えているのが見えた。その後、青山から三光町、伊達家のお屋敷(現:高輪消防署あたり)までほんの一部を残し燃えていた。

昭和20(1945)年3月の東京大空襲では、魚籃坂から渋谷まで丸見えだった。唯一残ったのが広尾病院で、屋上の赤いランプが点滅するのを憶えている。5月には山の手大空襲があり、そのときだったか、焼夷弾が落ち、伊皿子一帯が燃え、黄梅院も焼けた。犠牲者が出た。迷彩色の高輪台小学校にも焼夷弾がおちた。

その後、建物を強制的に壊して、延焼を防ぐ「建物疎開」が行われ、柱に紐を巻き付けみんなで引っ張って壊した。壊しきれず残った家もあったようだ。

戦時中だったが、桜田通りに面した正満寺境内には当時、池がありザリガニがいたので取って遊んでいたら叱られた。

■戦後の街の様子

昭和23(1948)年ごろ建設された都宮アパートは、当時は最新の建物として評判だったが、周辺は一带木々が生い茂って森のようだった。アパートの敷地内には赤穂浪士で有名な大石内蔵助の切腹の場所があったが、高い塀に囲まれ見ることはできなかった。二本榎通り沿いには映画館やビリヤード場もあった。

昭和27(1952)年頃、東海大学の前あたりから続く商店街では、朝市が開かれたり、毎月八の日は一割引きのサービスデーだった。当時では珍しい歩行者天国など多くのイベントが行われ、賑やかな街だった。

街中の様子として思い出すいくつかの情景

- 虚無僧が住宅街を回って托鉢をしていた。
- 薬を売り歩く「じょさい屋」は夏でも黒い半纏をきて、日よけの傘も被らず夏負けしない薬を薬箱にいれ天秤で担ぎ、箱のひきだしの轆の音をさせながら売り歩いていた。
- 下駄の歯を取り換える「ハイレ屋」さんが回ってきた。
- 夕方になると、品川沖で取れたワタリガニ、生あみ、しゃこ、貝類等を手押し車に載せ、「かにえー、かにえー」といって売り歩いていた。
- キセルの掃除をする「ラオ屋」が笛のようなものをピーッと鳴らしながら回っていた。

(※)「増補 写された港区二(高輪地区編)」(港区立郷土歴史館所蔵)より

みなとっぴ子ども編集室



昨年11月10日に開催された「あっぷリング高輪フェスティバル」、みなとっぴ子ども編集室から5人の子ども記者が出動！今回は2つのグループに分かれて、ボランティアスタッフのサポートのもと取材しました。普段見ることのないさまざまな出し物に触発され、イベントそのものの始まりにも興味を持つ記者もいました。子ども記者たちそれぞれの工夫を凝らした渾身の取材記事をぜひご覧ください！

ついでに

ぼくはジオラマのしゅぎいをしました。ぼくは、びっくりしたーしがいっぱいありました。だいたつくりなののでびっくりしました。あと、7、8年で作っていることです。草や花は全部ボンドでくっつけて、でん車もまがくりなのかわかりました。サングラスをかきしてみたら思ったかんたんでした。



● 藤田 碧記者 (小2)

てつどうもけい

わたしは、てつどうもけいを見たとき、びっくりしました。なぜかという、わたしはそれを、もけいだとし、ていしましたが、思ったよりほんものに見えたからでおもしろく、たんに、しのもんを、しました。なん年でかんせいするのですか」とゆうしのもんを、しました。それ



た7、8年だそうでお思ふより長くてびっくりしました。

● ノイス 稜良記者 (小2)

輪い輪いまつりのひみつ

このおまつりは、平成1年に始まったそうです。最初はおじいさんやおばあさんが小さなお子さんと、いっしょにふれあえらうに始まったそうです。あっぷリングという名前の由来は、高輪という地名から高であっぷ、輪でリングという意味だそうです。



ピエロさんがいいこと

ピエロさんはなぜこの仕事をしているのでしょうか。それには理由があります。それは、みんなに「やりたいことをやる」と伝えたいのです。

● なが たりん 太郎記者 (小4)

区民センターにも注目!

ピエロさんが風船をくばってくれるなんていいですね。でも輪い輪い祭りがすごいのは、夕だけじゃないんです。区民センターの中では、サッカーボールリングなどさまざまなイベントが行われています。たとえばロボットをうごかすコーナー。ここでは、プログラミングができるほうを使い、30度まがるついたてのようなものを付けて、ロボットをレーンにそって動かします。やってみましたがかんわりむすかしいです。



さあ、みなさんも区民センターへ。GO!



● けんしゅう ひろたか 見城 裕隆記者 (小5)

自転車シュミレーター

私か子ども記者として一番目を引かれたのは、自転車シュミレーターでした。やってみると、本当にの。ているような感覚で、スポーツを出しめるとどうなるのかなど、自転車の本当の怖さを知ることが出来ました。ルールをまちがえると画面の中にアシモ（歩行ロボット）が出て来て教えてくれます。来年はもっと上手く運転出来るか、楽しみです。

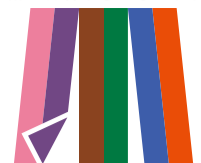


● やまだ さり記者 (小5)



安藤編集長から一言

子ども記者のみなさん、取材に、原稿書きに、がんばってくださいました。自分が体験したこと、感じたことが素直に表現されています。できた紙面の自分の記事を見て、考えることがさらに進歩するきっかけになりますよ。



区からのお知らせ

タウンミーティングTAKANAWA2019メンバー募集!!

総合支所で実施している事業に携わり、メンバーと一緒に考え、活動してみませんか。

- 対象** 高輪地区に在住・在勤・在学の人、または高輪地区のために活動したい人
- 内容** タウンミーティングTAKANAWAのメンバーとしてそれぞれのテーマに沿って高輪地区で活動していただきます。
- 任期** 地区版計画策定支援グループ 2年間(平成31年4月～平成33年3月) 上記以外のグループ 1年間(平成31年4月～平成32年3月)
- 第1回会議日程** 平成31年4月11日(木)午後6時30分～高輪区民センター1階集会室
- 申し込み方法** 希望するグループ名・住所・氏名・年齢・性別・職業(学校名)・電話番号・FAX番号・メールアドレスを明記し、郵送またはFAXで下記へ。
港区ホームページの応募フォームからも申し込みできます。
※応募多数の場合は、初めての人優先、年齢バランス等を考慮して抽選します。
- 締切** 平成31年3月20日(水)必着

●募集グループ

グループ名	活動内容	募集人数	活動の頻度
1 地域情報紙グループ	地域の地域情報紙「みなとつぶ」の発行に向けて、編集員として企画・取材・編集を行います。	15名程度	平日夜間に、年間20回程度(毎月火曜に開催予定) (各号の編集スケジュールによる) ※取材・撮影は、主に昼間に行います。
2 高輪今昔物語グループ	地域の魅力を未来に残すために写真を収集しています。写真の収集を目的とした、まち歩きや展示会等のイベントを企画・運営します。		平日夜間に、月1回程度(毎月金曜に開催予定) (土・日曜等にイベントを実施)
3 高輪みどりを育むプロジェクトチーム	地域の緑を活用した取組を企画し、地域の子どもたちと協力して菜園活動や壁面緑化などを行います。	20名程度	平日夜間に、月1回程度(毎月火曜に開催予定) (土・日曜等にイベントを実施)
4 地区版計画策定支援グループ	高輪地区版計画書の策定を支援するため、地域の現状や課題、地域事業を検討し、区への提言を行います。		平日夜間に、月1回程度(毎月水曜に開催予定) (土・日曜等にまち歩きを実施)

※報酬・交通費はありません。 ※会議の際に保育を希望する方は、ご相談ください。



高輪今昔物語グループ



高輪みどりを育むプロジェクト

「高輪地区町会・自治会サポート事業」

あなたの「活場所」づくり講座

事前案内 この講座は、町会・自治会について理解し、活動の担い手を増やす講座です。地域に関わり合うことやその仲間と共感できることを見つけ、寄り添いながら、皆さんで実際に地域へ繰り出し、活躍する場を見つけてみませんか。

対象 高輪地区にお住いの方 原則全てに参加可能な方

定員 申込制 / 20名

参加料 無料

講座概要 6月から12月まで全5回

(主に土曜日を予定) 詳細は、広報みなと4月21日号(予定)や港区ホームページの募集記事をご覧ください。

【問合せ】 高輪地区総合支所 協働推進課 TEL:5421-7621

もっと地域のことを知りたい



近隣の人たちと話がしてみたい

町会・自治会活動にいきなり参加するのは抵抗が...



自分の特技を地域で役立てたい



平成31年4月から
ハクビシン・アライグマ対策を実施予定です

近年、区内でハクビシンやアライグマが目撃され、生息範囲の広がりが確認されています。区では深刻な被害の拡大を防ぐため、以下のような実害が発生した場合に、現地調査を行い必要と認められる場合は箱わなの設置を行います。



- 家屋侵入による糞尿、臭気等の実害が発生している
- 天井裏から大きな足音や物音がする
- 空き家等に棲みついている
- 庭の果実などが食べられてしまった。

※次のような場合は対象外となります。
・「見かけた」など実害が発生していない場合
・建物等の所有者から了承が得られない場合
・申出者による毎日の見回り等ができない場合

ハクビシンの特徴

顔の真中に白いすじ
前足足跡
足が短い
前足・後足とも5本指
尾が長い
スリムな体型 頭から尾の先まで90~110cm
後足足跡

【問合せ】 芝地区総合支所 協働推進課 TEL:3578-3123
麻布地区総合支所 協働推進課 TEL:5114-8802
赤坂地区総合支所 協働推進課 TEL:5413-7272
高輪地区総合支所 協働推進課 TEL:5421-7621
芝浦港南地区総合支所 協働推進課 TEL:6400-0031
環境リサイクル支援部 環境課 TEL:3578-2506

本紙のバックナンバーは港区ホームページ(高輪地区総合支所のページ)からもご覧になれます。 みなとつぶ バックナンバー

編集だより

▼ 長い間守られてきた高輪地区の魅力と、これから新しく加わる魅力を少しでも読者に伝えることができたらと願っています。(安藤)

▼ 大学卒業に伴い今号でみなとつぶも卒業です。読者のみなさま、編集メンバーのみなさま、港区のみなさま、ありがとうございました。またいつか、ご縁があればよろしくお願ひします。(戸部田)

▼ 高輪に長くお住まいになり、暮らしの中の日常、非日常を見つめてこられた方々の貴重なお話を伺い心に響くものがありました。有難うございました。(吉田)

▼ 青春の頃より、巖谷家両作家の作品が大好きで何冊も読んできました。この程、巖谷国士先生の内容すべてに感激致しております。(明石)

▼ 昔からこの町を愛する方々が多くいらつしやう、その情熱が現在も流れていて、その熱さを、次の世代に受け継いでいかなければと思いました。(伊関)

▼ 読者の方々に、高輪地区をもっと知っていただき、歴史ある行事やお祭りなどが、これからも、ずっと、受け継がれていくことを願ひします。(齋藤)

▼ 地域の集まりで「ゆかしの杜」をよく利用します。美しく歴史ある建物が持つ独特の雰囲気、とても気に入っています。(佐藤)

▼ ビルが増えたとはいえ、高輪のあちこちに、まだ古い歴史のあとを感じる。戦前戦後のことをよく覚えておられる方々に更にお話をお聞きしたいと思う。(滝川)

▼ ハーフマラソンと義士祭の写真を撮りましたが、どちらも盛況で私も楽しめました。港区には沢山の行事があり、地域の活力になっている感じします。(平尾)

▼ 昭和の懐かしさといった「ゆかしの杜」。10人以上なら事前の予約で学芸員の方の解説もお願いできます。是非、お勧め。(松島)

▼ 街のあちらこちらでランニングに汗を流す人を多く見かけます。港区で、人気スポーツのイベントが開催されたのは嬉しいことですね。(森)

▼ 今回の取材で、想像もしていなかった戦後の白金の街並み、喧嘩、人々の営み...そんなこんなを垣間見せてもらい歴史の大切さを痛感しました。(黒瀬)

- 区民編集メンバー
- 安藤洋一(チーフ) 伊関則子 滝川まりえ
 - 戸部田伊織(サブチーフ) 黒瀬尚美 平尾恭一
 - 吉田由紀子(サブチーフ) 齋藤初美 松島佐紀子
 - 明石美穂子 佐藤雅子 森裕子

※この情報は、区が公募し応募のあった区民と、区との協働でつくられています。

毎週水曜日は午後7時まで受付

※取扱業務は限定されます。

事前にご確認ください。

区民課窓口サービス係

5421-7612 / 保健福祉係

5421-7085